

長田地区活性化協議会 2018年度第2回全体研修会

開催日時：2019年3月15日（金）19:00～21:00

開催場所：長田生涯学習センター

講師：静岡市子ども食堂ネットワーク 飯沼理事長

《司会：島》

皆様、今日は年度末のお忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。それでは今から、【長田地区活性化協議会3月度研修事業】を開催させていただきます。どうぞよろしく願いいたします。それでは、まず初めに開会あいさつを増田会長よろしく願いいたします。

《会長挨拶：増田会長》

はい。皆さんこんばんわ。本日は飯沼理事長には、大変お忙しい中、私たち長田地区活性化協議会の3月度の研修事業でご指導いただけるということで、貴重なお時間を頂きまして、本当にありがとうございます。

今日の研修に先立ち、私たち長田会のことをお話しさせていただきます。私たち長田会は、この長田という場所に生まれ育った者、ゆかりのある者、また事業を営んでいる者が、約34名の会員で構成された有志の集まりでございます。

来年は、長田会が結成されてから25年を迎えようとしている、大変息の長い会です。活動内容は、講演会をはじめ勉強会・地域の調査、地域交流・全体事業・周年事業といった形で、長田に関わりながら【豊かで住みよいまちづくり】をしていきたいという思いの下、会員のみinnで知恵を絞って活動しております。

今回は、NPO法人静岡市子ども食堂ネットワークの活動を、この研修を通じてご指導いただき、当会の基本理念の中にも含まれている「子どもの健全な育成」について、今日の講演でレクチャーをいただきながら、我々の活動においても、今後、何か新しいものができるだろうか、また一緒にご協力できるものがないだろうか、そういったことも含めて、今日はお時間の許す限りご指導いただきたいと思ひます。

最後になりますが、理事長には事前に準備もしていただいているにも関わらず、会員30数名のうち今日はこのメンバーしか集まることができず本当に申し訳ありません。しかし、ここにいるメンバーは長田会を代表するメンバーです。今日、勉強させていただいたことを、会員で持ち帰り、是非、長田会の中で共有ができるようにしていきたいと思ひますので、ご指導をいただきたいと思ひます。最後までどうぞよろしく願いいたします。ありがとうございます。

《司会：島》

増田会長ありがとうございました。

それでは趣旨説明を小林理事のほうからよろしく願いいたします。

《趣旨説明：小林理事》

趣旨説明をさせていただきます。今日は皆さんありがとうございます。

今回の主旨といたしましては、長田会は【豊かで住み良いまちづくり】を基本理念に掲げ、講演会・勉強会など地域の交流に根付いた事業・活動を行っております。

長田ちびっこランドや用宗漁港等のいろんな催しに参加させていただき、地域とのつながりを大切に、未来を担う子供たちと地域の皆様方と親しみ楽しみともに将来を育むための活動をしています。

そのため、今回の研修に先立ち、地域の課題を理解しようと10月に研修事業を行わせていただきました。その中で長田でも運営をされている子ども食堂さんのお話もぜひお聞きしたいと考え、今回の研修をさせてもらうことになりました。

以上です。

《司会：島》

小林理事、どうもありがとうございます。

それでは講師のご紹介を、私のほうから簡単にさせていただきたいと思います。本日講演をしてくださる飯沼理事長、そして後ろにいらっしゃるのは事務局の八木局さんです。

今、NPO 法人静岡市子ども食堂が運営する子ども食堂は、静岡市内に11箇所ございます。地域のボランティアさん、そして活動に協賛していただける企業さんから、食材やお金の会場などのご協力を頂きながらこの子ども食堂を開催されております。

現在、長田地区では丁子屋の奥様が丸子交番の裏にある団地の集会場で、最初の子どもの食堂を開催されたのが三年前です。私も北丸子の事務機器屋さんの若杉さんからの御紹介でご縁をいただき、三年前にお伺いをしたのがきっかけでした。もともと【静岡市内の全小学校区に1カ所ずつ子ども食堂を作っていきたい】という目標を持って取り組んでいる気持ちに共感をし、まずはこの長田5学区で実施をするために「私も頑張ってやります」という気持ちになりました。

長田地区では二か所目に用宗漁港の会議室をお借りして実施が始まりました。三か所目は相坂県議が安倍川駅前のみどり庵さんで開催が出来るようにお話をしてくださり、今年一月から川原会館の方で四か所目がスタートしました。JC 活動でご縁をいただき、女性活躍のサポートされている立川代表が運営をしてくださっています。段々と数が増えてきており、来年度には5カ所目となる長田北に開催を予定しています。運営をしてくださる方が見つかり、これで長田学区が完成したなあと考えています。

子ども食堂の運営には、1カ所、年間10万円から20万円ほどの費用がかかります。企

業の協賛や地域の協力を頂かなければ運営ができないため、現在は活動を広めるのと同時に企業の協力も進めている状況であります。

飯沼代表や事務局の八木さんもボランティアで活動されていて、大変素晴らしい方だと感じております。今回の研修を通じて、長田会の皆様にもこういった活動を知っていただければと思いこの事業を開催させていただくことになりました。

今日は、お時間もゆっくりございますので、是非いろいろなお話を聞かせていただければと思います。簡単ではございますが、私からの講師紹介とさせていただきます。それでは講演に入らせていただきます。NPO 法人静岡市子ども食堂ネットワークの飯沼理事長どうぞよろしく願いいたします。

《飯沼理事長》

それではすみません。今から説明をさせていただきますので、よろしく願いいたします。まず説明に入る前に、本日はお忙しい中静岡市子ども食堂の方に興味を持っていただきまして、こういう場を作っていただきまして、大変助かっております。こういった理解を深める活動を通じて、いろんな方が子ども食堂のまゝ実態というとあれなんですけれども、中身の方をご理解いただけたらと思っておりますので、またよろしく願いいたします。

【1. 子ども食堂とは何か】

それではすみません。お手元の資料なんですけれども、いろいろ入っておりますので、少し確認していただきたいのですが、まずこちらにというか 1234 と書いてある（資料の中で）【子ども食堂とは何か】っていう、これの上段部分から説明させていただきますので、すみませんけど、こちらの方からお手元の方に用意していただければと思います。では【子ども食堂とは何か】っていうことなんですけれども、皆さん、まず子ども食堂って聞いたことはあるとは思いますが。

で、イメージも多分持ってらっしゃると思うんですけれども、たぶんそのテレビとか新聞とかメディアで入ってくるイメージっていうのが、どっちかっていうと、生活に困っている貧乏な子供たちにご飯を食べさせてるよっというような、イメージが今ついてはいるんですけれども、もともと子ども食堂っていうのは、東京の方で始まった活動です。

やはり東京の方は、貧困の子供たちが多し・貧富の差が激しいというところで、特に東京は大都市ですね、池袋とか新宿とか豊島とか、そういう所から子ども食堂は始まっていきました。

もともと子ども食堂はどちらかというと、子どもたち向けの活動をしている団体さんが行っているのではなく、例えばホームレスさんに食事提供する団体さんが、そういう活動を通じていくうちに、どうもホームレスさん以外にもその地域に住んでらっしゃる、例えばシングルマザーのお子さんとかが、ご飯が食べれないっていう子がいるみたいよっという所

に、まあ気づきまして、ホームレスさんへのご飯提供とは別に、地域の子供達にご飯を食べさせる活動を始めようっていうのが、一番最初のスタートです。

おそらくその活動は、10年はたっていないと思うんですけども、そのぐらいの年数の前から行われてきました。で、そういう活動を東京の団体さんが、1団体・2団体・3団体と、少しずつ増えていく中で、メディアがそれを取り上げたんですね。

NHK なんですよ。

で、これを取り上げられたことで、子ども食堂という内容というか、活動が一気に全国に広められてきたと聞いております。

で、その時にやっぱりテレビの取り上げ方が、地域の食べられない貧困の子供たちに、そういう団体さんであるとか、ボランティアさんが食事を提供して、子供たちにそういう活動をしているという、まあそういう説明で取り上げたんですけども、まあそれが変な話間違っ
てはいないんですね。

確かにその通りなんですけども、そういうと何となく一杯の掛けそばじゃないんですけど、もう本当に「晩御飯が食べれなくて本当に困った子供たちに」という緊急性のあるイメージをしてしまうんですけども、もちろんそういう子どもたちも、無きにしも非ずなんですけど、今言われてるのは、「7人に一人は貧困の子供たちがいるよ」というのが、ニュースになっています。

で、じゃあ自分たちの周りを見たときに、「7人に一人の子供たちがそんなに食べれなくて、ヒモジイ思いをしている子がいるのか」というと、そういう風には見えないと思うんですけども、この7人に一人っていうのは、俗にいう相対的貧困という部分の貧困なんです。

絶対的貧困に対して、相対的貧困っていう言葉があるんですけども、絶対的貧困は、もうご飯食べるものがない・本当に貧乏で今日も食べるのが困るっていうのが、絶対的貧困なんですけど、相対的貧困っていうのは、食べるには困らないけれども、例えば、一般の家庭が行えるようなこと、例えば、習い事を習わせたりとか・旅行に行きたいとか・外食をしたりとか、そういうことが出来ないそういう家庭の子供たちが、相対的貧困という。それが7人に一人ということですね。

この相対的貧困っていうカテゴリーに入っている子供っていうのは、正直、外から見るとわからないことが多いです。自分たちが生活に苦労したとしても、やっぱり子供にはそういう不便な思いはできるだけさせたくない、できるだけそういう風に見られないように、着るものとか・持つものはできるだけ、他のご家族と同じようなものを持たせてあげたい、という親心がどうしてもありますので、生活は苦しくとも、あまり外から見て貧乏状態とか・大変な状態っていうのがわかんないようにしてあげてることが多いもんですから、俗にいう、隠れた貧困というかたちにはなってはいます。

で、「そういう子供たちが7人に一人いるよ」とって状況のなかで、子ども食堂がじゃあ「そういう子供達にご飯を食べさせることを目的としているのか」というと、もちろん「そ

ういう子供たちに来てもらって、ご飯を食べることで一食でも助かる」ってものあるでしょうし、絶対的貧困の子が「(いつも) 食べれないものが、今日はおなか一杯食べれるね」っていうことでも、それはそれで素晴らしいことなんですけども。

あの僕、東京の子ども食堂さんを見に行きましたのが、三年前の11月だったと思うんですけども、「そういうニュースをみたけれどもどういう状況なんだろう」と思って見に行ってみると、意外と和気あいあいとしてるんですね。

で、そのこの代表の方にも話を聞いたんですけど、もっと言い方は悪いんですけど、「貧乏な子が集まって暗いイメージだと思いました」っていう話をしたら、「いや実際に来ている子は、一般の普通の子が多いんです」と言うことをおっしゃったんですよ。

メディアの取り上げ方がどうしても、その偏ったところを取り上げているんですけども、もちろんそれは嘘ではないんですが、どちらかという、一般の子が多く、楽しく和気あいあいとご飯を食べています。

で、なんでそういう取り上げ方をしたかという、まあもちろんメディアの方は、「少しでもこうメッセージ性を強く高めるため」じゃあないんでしょうけど、そういう編集の仕方をしたと。

あと、そういう団体さんですから、行政からですね、貧困対策支援という名目で補助金・助成金が出ているんですね。

で、その時に実際の内容が、「近所の子が食べて和気あいあいとやっています」というところに、そのお金を使ってしまうと、本来と違う活動となってしまうこともあるんで、名目上というか・表面上というか、貧困対策支援で食べれない困っているご家庭の子供達にご飯を食べさせますっていう言い方をしています。

でも内状はもちろんそういう子どもたちも来るけど、そういう子供たちに限った活動ではなく、「地域の子供たち皆来ていいよ」っていう活動になっていると。

ですから、実際「メディアの取り上げと、内容っていうのは違うんだな」っていうのが、僕がそこで見に行くと気づいたことなんです。

実際にそういう活動を通じて、僕も静岡で、子ども食堂をこれは素晴らしい活動だから是非広めたいと思って、始めようと思ったんですけど、最初の自治会長さん・竜南の自治会長さん・そういういろんな地域の自治会長さんに、お話しを持ってくることがありますと、やっぱり「この地域の母親のお手伝いをするので、是非是非、ご協力の方を賜りたいと。よろしくお願いします」と挨拶するんですけども、そうするとやっぱりほとんどの自治会長さんが、「こちらの地域でそういう貧困対策支援の活動をする。っていうのは言わないでくれ」って、やっぱりこうおっしゃるんですね。

「この地域が貧乏だっていうふうなイメージになってしまう。ですからそういう貧困対策活動っていうことは言わないでほしい。」

で、僕らは「貧困対策活動とは一切言いません」と最初にお話はしています。

逆に、貧困対策活動って言うってしまうと、そこに来た子がまあ「山田さんちの太郎君は貧

乏なんだとか・その鈴木さんちの花子さんは意外と困っているんだね」っていうような、そういう活動にとらえられてしまうと、非常に間違ったメッセージを発信してしまう活動になってしまって、貧困対策っていうことに関しては、地元の要望と僕らのイメージで一切使っておりません。そのあたりに関しては。

で、結局この子ども食堂はメディアの取り上げで、ばあっと広がったことは正しいんですけど、そのメディアのイメージで貧困対策活動っていうような、逆に強いイメージがついてしまったっていうのが今、実はやりながら苦労している部分ではあります。

例えば、この地域でやりたいっていう話になるときに、「この地域そんなに貧困の子なんかいないよ」っとおっしゃる方がいらっしゃったり、「やる意味ないんじゃないの」っということを、おっしゃる方もいらっしゃるんですけども、まあ後ほどまた説明するんですけども、「貧困対策支援以外の活動も、十分その子ども食堂の活動に含まれているので、是非やらせていただければ、素晴らしい活動になると思います」と言っているんですけども、やっぱりどうしても最初に入ってくるメディアのイメージってのが、人間、やっぱりこう最初に入るイメージが、一番最初になってしまうので、そういう貧困対策っていう活動のイメージをとるのが大変難しい。

でも、もちろんそういう側面もあります。でもそれだけじゃないです。子ども食堂っていういろんなことがあります。っていうそういう認識を、まず皆さんが持っていただくと大変助かります。

で、東京の子ども食堂を見に行った時に、やっぱり地域の小さい、まあ赤ちゃんとか・2歳児・3歳児を連れてお母さんが食べに来たりとか、地域の高齢者とか・70~80の方が食べに来たりとか、もちろん子供たちも来てたりするんですけど、要はそこでみんなでご飯を食べる楽しさっていうのを、皆さん共有することが本当に多くてですね、老若男女・本当に性別問わず、みんなで同じご飯を食べて和気あいあいとしたりしてるんですけども、そういう取り上げ方っていうのが、今なかなかないもんですから、皆さんも行ってみれば大体どこの子ども食堂もそんな感じなんですけど、行ってみないとそのメディアのイメージっていうのが、どうしてもついてしまいがちで、まずは子ども食堂っていうのは、地域でいろんな方が、いろんなことに携われる子どもたちを中心にした、ご飯を食べられる場所だと。その中でいろんな目的があるんだけど、その目的の中のひとつに、子どもの貧困対策っていうのがあるんだよっていうのを、まず認識してもらえれば大変助かります。

【2. 子ども食堂でできる事】

で、今もちろん用宗でもやってますし、長田地区で長田北小学校区以外でやらせてもらってるんですけど、じゃ子ども食堂で何をしているのかってことなんですけど…(研修資料の2) この【子ども食堂でできる事】っていうこのタイトルなんですけど、まず一番最初に、よくそのイメージで貧困対策まあこういったものを行います。でもその貧困対策も目に見える貧困・目に見えない貧困・7人に一人の相対的な貧困の子ばかりではございませんで、

貧困対策っていう言葉は僕らは使いませんし、非常にデリケートな対策として、貧困対策支援は一応、中に入れておりません。

で、次ですね2番目…この地域交流・世代間交流これが一番やっていて大きいです。静岡の場合は東京と違って、やっぱり定住するご家族が多いんで、あんまり貧困ってことも後々ずっと何十年も言われてしまう可能性もありますが、その中でやっぱり定住するって方が多いってことは、その地域の和というか、交流ってすごく大事ですので、そんな中に、地域交流・世代間交流・子供も含めて・お年寄りも含めて、皆さん子ども食堂に来てもらえれば、ご飯を食べながら堅苦しくない交流ができますよっていうので、この地域交流・世代間交流ってところが、メインではないんですけど、どこでも喜ばれているってことが言えます。

で3番目、子どもたちの第三の居場所ってことなんですけども、これは第一の居場所が家。家庭に子どもたちの居場所があります。第二の居場所が学校。学校にはやっぱり子供たちの世界があります。

まあこれは…もちろんだいたい普通の場合は、家庭と学校を行き来して、途中まあ学校終わった後、お友達と遊んだりとか・塾に行ったりとか・習い事したりとかもあるんですけども、やっぱりその塾に行っていない子どもであったりとか・習い事を習っていないお子さんでいらっしたりとか、そういった中で子ども食堂っていうのは、いろんなことがいろんな方が来られて、いろんな話をしたりとか、子どもたちも友達同士で誘い合ってきたりとか、家庭と学校とは別の第三の居場所として、ボランティアの方も含めた地域の方との交流ができる、そういったことそういう場所を作るのがねらいです。

で、実際学校に引きこもりになってしまっ行って行けない子が、子ども食堂に来たりとかするパターンがあります。学校には行けないんだけど、子ども食堂にいけば友達と会えるから、子ども食堂に行くような…そんな中でどうしても子ども食堂がないと、学校に行けない。

家の中で籠りきりになってしまう子どもを…まあ今、月に一回しかできていないんですけども、月に一回でも友達とそういう子ども食堂で顔を合わせる・誘ってもらえる、そういう機会を持ってもらって、第三の居場所というそういうことも、子ども食堂の活動の目的でもあります。

で、(研修資料の2)食育・孤食対策活動っていうのもあるんですけども、これは夫婦共働きで働いていますとどうしても正社員・正社員ですと、お母さんお父さんが帰ってくるのが遅いということになりますと、子どもたちは食べるものはコンビニで買っていくとか・カップラーメンに頼るとか、外食の機会が多くなっていくんですけども、僕も子どものころは母親が設計士をしておりましたんで、父親・母親抜きで暮らしてましたから、子どもたちだけで晩御飯を食べることが多かったんです。

その時にやっぱり食べれるものっていうのは、買ってきたものを食べるとか・自分たちで作れる程度のものを食べるとか、外食が多かったんですけど、そういう子供時代を過ごしたからわかるんですけど、外食ってあんまり美味しくないんですよ。

たまに行くと外食って嬉しいみたいなんですけど、週のうち半分となると、うちで食べる母親のご飯の方がレアで、そっちのほうが嬉しかったんですね。僕が小学校の頃は。

で、もちろん共働きしていますと、なかなかご飯って作る時間がお母さんには無かったもので、どうしてもそういう手のかからないもので子どもたちに食べてもらうしかないんですけれども、どっちかっていうと子ども食堂に行くと、お母さんのご飯ではないんですけれども、何かどっかのお母さん、あるいはどっかのお祖母ちゃんが作ってくれた家庭料理…家庭料理ですね。

外食と違って家庭料理っていうのは、やっぱりちょっとね…温かさがあります。外で食べる料理・外食のほうが美味しいんですけど、なんだろうな、やっぱり家庭料理の方が幸せな気持ちになるんですよ。やっぱりあの。

ですから、エコ食あるいは子どもたちだけで食べる。そういう寂しい食事をしている子供たちからすると、決して贅沢ではないけれども、その誰かが作ってくれた手料理をみんなで食べるっていう状況が、非常に嬉しいというのがありますので、僕個人的になんですけども孤食対策活動ってのが、僕が子どものころに子ども食堂があったら一番嬉しいなっていう、そんな思いがありますので、僕はすごく大事にはしております。

ボランティアさんの交流の場としても、子ども食堂は機能しております。

やっぱりボランティアさん同士、地域のボランティアさんもご年配の方が多いです、仕事を持ちながら子育ても一段落したっていう、そういった主婦の方っていうと、60歳以上の方が多いですけど、どこの子ども食堂にもその世代の女性ボランティアさんが中心になってやってくださっているんですけども、そういう方ってやっぱり地域にもう何十年とお付き合いのあるそういう古いお友達もいらっしゃるんですけど、声かけあって、子ども食堂のボランティアさんのチームを作って、活動してくださっております。

そこにまた別の方が入ってきたりとか、子ども食堂のボランティアさん同士のつながりってのも少しずつ増えては来ています。

もちろん、そのボランティアさん同士の…逆に逆のパターンでその…仲が悪くなっちゃってってのも、無きにしも非ずなんですけどでも、大体においては、そこでさらに交流が深まるっということもありますので、ボランティアさん同士が仲良くなれる一つのきっかけにもなったりはします。

後述しますけれども、そのボランティアさんが実は、子ども食堂やって子どもたちを通じて活動を通じて、すごく楽しいってことをおっしゃっていただいて、生き甲斐っていうのもなんですけれども、楽しみにやってくださってる方が多いもんですから、楽しい交流っていうのがボランティアさん同士で来ているんだなっていうのが、子ども同士の子ども食堂が今度3年…今度4年目になるんですが、未だに一つも閉鎖せずずっと続けてられる一つのきっかけになるんじゃないか…きっかけになってるんじゃないかと思っております。

で、(研修資料の2) 体験学習。

これすみません。ちょっと(別紙を)見てもらうとわかるんですけども、いろんな体験学

習をやったださるんですけれども、これ例えば一つ演奏会。

これ、ボランティアさんで5~6人ぐらいでちょっと小さな編成なんですけど、クラシックをちょっと聞かせてあげたいって子供たちにうける様なジブリの曲とか、そういったものやったりしたんですけれども…あとまた小さいところでは紙細工とか竹とんぼとか、あとこの三味線を習っている方が三味線をソロで演奏したりとか、そういうですね、学校の勉強・スポーツ…習い事のスポーツとは違ってですね、普段なかなか接することができないことを、子ども食堂でやってもらうってことが、子どもたちにとっていろんな体験・経験になるんじゃないかなって思ってやっています。

学校での宿題を子ども食堂でやるみたいねって言って、まあ強制じゃないんですけれども、わりかし宿題を持ってこさせてやらせたりしてるんですけれども、そういったこととは別に、こういう体験学習をかなり楽しくやって、子どもたちも喜んでくれますし、あとこちらお母さんたちも普段来ないんですけれど、まあ来られたりとかそう言うふうに、お母さんも含めていろんな交流ができる一つのきっかけになりますのでね、こういう体験学習なんかもいろいろやっていきたいと思っております。

あとまたそれこそ、この前、島先生とお話した時に面白そうだなあと思ったのが、用宗漁港さんでシラス漁船に、子どもたちが乗っかって行って、そういう体験もできるんじゃないかとか、子ども食堂の中だけじゃなくて子ども食堂を一つのきっかけとした体験学習は非常に効果的で、僕は是非やりたいなって思っております。

あとはですね次、(研修資料の2) 地域に埋没した保護者や子供たちの相談・サポート。

これはさっき言ったように、引きこもりになってしまった子供が…学校さんもケアをしたいんだけど出てこないとか家庭訪問してもお母さんがあってくれないとか、なかなか会う機会がないそうです。

で実は今、13箇所。今、こちらの(別紙資料の)資料の方で年表みたいになって、最新がこの2019年1月に川原小学校でスタートしてます。

ここには書いてないと思いますけれども、これも毎日うちの事務所で刷るんですけれども…引きこもりの子…最初はうち(竜南)の子ども食堂です。

数は多くないんですけれども、3人とか多くても5人ぐらいしか来ないんですけれども、こちらの方は週に一回やっています。

やっぱり子ども食堂を楽しみに来てくれる子供たちとは違って、引きこもりの子ってというのは、いろいろ理由とか事情があって引きこもりになった子が多いですから、ちょっと根が深い部分があります。

で、楽しみにしてる子供たちが多くいので、週に一回頻度を上げてやってるんですけれども、学校さん…学校の先生がうちに来るようになりました。

お話を聞きに。

なんでかなあと思ったら、その子ども食堂…週一の引きこもりの子ども食堂にやってくる子供たちって、学校の先生が気になって家に行っても、親御さんがあってくれないとかそう

いう状況で、学校がその状況がわからない。

で、児童相談所も入っていいのかわからないっていう…ちょっとこう見えない状態になっている子が、何人かいるんですけども、そういった時に、子ども食堂に来て、週一にうちに来て、勉強を学んでるっていう話を保護者の方から聞いたときに、先生が相当びっくりされて、そんなだったら是非一度お邪魔したいですって話をするようになったんですけども。

で、ただやっぱり学校の先生も、すごくこうそういう子にパパって入っていくと、デリケートでこうすごく嫌われてしまう事が怖いんで、今、その学校との連携を探りながら、でもどうやって行っていいのかっていうのが、ちょっと僕らもまだ判らないので、今は週一子ども食堂で、子どもたちに勉強を教えながらご飯を食べる…今こういう状況ですってのを学校の先生に伝える。

その学校の先生が、じゃあ地元の児童相談所であったりとか、いろんな連携をすること話をしていって、どうもこういうことらしいですっていう所で話は止まっているんですけども、この機能を強化していけば、もう少し学校とのパイプで何かもっと有効な活動ができるんじゃないかなあって思っているんですけども、ちょっとまだすみません…これに関しては僕らも手探りでやっているもんですから、何とも言えないんですけども、ただ予期しない結果としてやっていく中で、こういったものも求められているんだっていうのがわかった次第でございます。

で、最後なんですけども（研修資料の2）子どもの子育て問題に取り組む行政や団体・専門機関との連携ですけど、学校さんであるとか、その上の教育委員会さんであるとか、あとそういうチラシ類なんかも小学校に配布させてもらっていますので、やはりそういう小学校との連携をもう少し強くしていきたいと思っています。

あと子ども…育児活動をしていらっしゃる他の団体さんとか、子ども食堂以外の活動をしている団体さんと連携していって、先ほどのこういう体験学習を含めて、何か子供たちにPRしたいよという団体さんがいらっしゃれば、今後、もっとつながっていく話なんじゃないかなとは思っています。

これは今、僕らが子ども食堂をやっている、まあいろんな名目というか、内容なんですけれども、それは地域性で雰囲気は全然違います。

例えば、僕いま麻機に住んでいるんですけども、麻機でやってる子ども食堂と、その隣の区の竜南の小学校区でやってる子ども食堂では、全然雰囲気が違います。

やっぱりその、住んでいらっしゃる方とか働いている内容とか、商業地域であるかとか、住宅地であるとか、あと田んぼが多い田舎だとか、海が近いところなのか、やっぱりその住んでる方の生活の様式が違えば、やっぱり子供たちの反応も違ってきます。

【3. 地域に広げる子ども食堂の意味】

なので、その（研修資料の3）3番なんですけれども【地域に広げる子ども食堂の意味】っ

という所に繋がってくるんですけども、子ども食堂を広げる。僕らのネットワークで広げるっていった時に、3年前なんですけど、なんかそういうの意味あるの？って言われたんですね。

子ども食堂をやればいだけであって、ネットワーク化してその一小学校区に一子ども食堂を作るなんて言うのは、そんなことやる意味があるの？って言われたんですけど、調べてみたら小学校…静岡市って90何校あるんです。

すごく多いんです。

で…ただ250名以上の小学校、生徒がいる小学校になる62校かな？になります。

こちら(資料の)円グラフのね一覧表にあるんですけども、これが生徒数のリストになっております。

このところに載っていない小学校さんは、久能小学校さんとか・葵区の山の方の全校生徒が10名とか・場合によっては5名6名とかっていう所もあるみたいなんですけども、そういう小学校さんはちょっと省かせてもらって、大きいところだけ載せました。

あの最低でも僕は、60何校に子ども食堂を1個ずつ作っていきたい。毎月一回開催する子ども食堂を作ると。

なんでかという、子ども食堂ってまずは、子どもたちが気楽に歩いて行ける距離に作りたいたいんですね。

子ども食堂は今、13箇所やってるんですけど、それが60何箇所に増やしたい。そんなのってすごく大変なことなんです。

変な話…1箇所に子ども食堂を作ってより、深い内容とかねやった方がよっぽど楽なんです。毎月一、子ども食堂を開催して、あれもやる・これもやる・すごい深いこともできるっていう方が実は楽です。

月に一回の子ども食堂を、今日はあそこ・明日はここと言うふうにやってく方が、えらく大変なんですけど、大変な理由は、本当に子どもたちが歩いて行けるところに作らないと、意味がないんじゃないかなって思ったんです。

先程言ったように、貧困の子だけでもいい。例えば、引きこもりの子がいる・交流したい子供がいる・いろんな子供がいる中でみんな来ていいよっていうふうになった時に、子どもの歩いて行ける距離にない子は、どうやって来るんだろう？と思ったら、やっぱり子供の歩く距離で通える小学校区だよと。

だったら、小学校区に1個ずつ作っていくしか道は無いなっていうことで、とにかく子どもたちが歩ける距離、60何校の小学校区に子ども食堂を作ろうと。そういうのがうちの団体のミッションとなっています。

で、(資料の)その下なんですけども、この子ども食堂を開いたからと言ってね、無理やり来いとか・行けとか出来ないんで、本当に自由意思…子どもたちの自由意思に、もう任せることになってるんですね。

子ども食堂の有効性とか・社会性とかなんて、子供達には興味がないんです。

全然ピンと来ないんで、子どもたちはそこに行くことで、楽しいとか・そこに行くことで救われるとか・やっぱりこう行きたい気持ちがないと来てくれないです。

で、僕ら定員 30 名にしています。30 食作ります。

で、30 食作って、大体増えてっちゃうんですね。子どもたちが、30 人 40 人 50 人 60 人と…一番多いとき 70 食作っていて、それこそ用宗の長田南シラス子ども食堂さんが、70 食。70 食作っていると。

実際、その調理室があるわけじゃなくて、給湯室みたいな施設しかないですけども、そこで 70 食作るってすごく大変なんです。ボランティアさんは。

だけど、子どもたちにすみません・子供たちにごめんねっていうのは、すごくかわいそうだから…来た子には全部食わせるっていう、そういった気持ちで増やしてはいるんですけども。

じゃあ、70 人以上来るのは、やっぱりその子どもたちが来たいと思うから来てくれるわけで、非常にありがたい事なんです。

ですから、子どもたちの自由意思で来てくれるのはすごくありがたい。けど増えていかない子ども食堂もあります。

常に 10 人ぐらいしかいない。それ以上増えていかない。

なんでかなあと思ったら、そこに来る子供たちの中に、やっぱり学校で問題行動を起こす子供がやっぱりいるんですね。

その学校の中で、ちょっと困った子だよっていう子がいるんですよ。その 10 人の中に。そうすると、何々クンが行ってるんだったら、やっぱり僕行きたくないとか・何とかさんちのうちのお子さんがあるんだったら、うちの子は行かせたくないわ、というような方が広がると、普通の子というか、やっぱり来なくなってしまいます。

ちょっと困った子しか来なくなると。

だけど、それはそれでその良いんですよ。あの子ども食堂って、そういう困った子だけしか来ない子ども食堂があってもいいと思うんです。

あの、困った子ってやっぱり、ちょっと家庭に複雑な…複雑だったり、家庭に問題を抱えている状態な子が多いんで、基本的な常識というか、そういったものを学べてない子が多いです。

謝らないとかね・人に迷惑をかけるとか。そうやって注意を引こうとしている子が多いですから、それを子ども食堂のボランティアで、子ども食堂のボランティアさんが逆に、10 人しかいない方が、一人一人目が届くんです。

70 人いるとね、こう大変になっちゃうんですけど。

10 人だと非常に目が届くので、逆に密度の濃い指導というか躰になってしまう。

そうすると、そういう子供たちも半年一年来てくれると、全然違います。

最初、ご飯をめちゃくちゃにして食べない子がね、ほっぽり投げて食べ歩く子とかが、半年・一年すると美味しかったとか、いただきます・ご馳走様と、ちゃんと食器を片付ける様な、

そういうマナーが出来るようになってくるとか、やっぱり人の話をちゃんと聞けるようになってくれるので、人数が多いと何となくすごいとか・少ないとだめかあって所もあるんですけども…もちろんそういう一面もあるんですけど、あんまり僕、人数にこだわらなくて、中身で見てもらえればいいかなとは思ってます。

もちろん、中身が無くて人が少ないんじゃないかね、何か問題があるんですけども。

言ってみれば、人数は一つの指針ではありますけれども、少ないからと言って、別にその失敗したわけではない。

ですから、子供たちが来てくれるその地域によって、来てくれる子どもたちの目的によって、人数は増減しますけれども、まずは自由意思が一番大事ですということです。

で、地域の問題をいち早く掴み取れるネットワークの構築…これもやっぱりね、最初、僕らのやっぱり、その引きこもりの子がなんでこの子は引きこもりなのかって判ったのが、やっぱり地域の保護者の方がね、子ども食堂に来てたあの子…実は学校に行っていないよ・引きこもりの子よっていう相談を受けて、この子ちょっとそうなんだっていうところから、やっぱり気づいたということですね。

やっぱり、そういう子を、この子…気になる子がいる・何とかしてあげたい子がいるっていう情報を掴み取るためにもね、やっぱりネットワーク化していかないと難しいんですね。

その地域の人だと逆に言いにくいんですよ。

地元の人に地元の人のことを相談するって、なんかこう陰口を言ってるように捕らわれる方もいらっしゃるみたいなんで、逆に僕らみたいに、その地域に住んでないの方が相談しやすいっていうことになりますので、そういった意味ではね、出来るだけニュートラルな人が携わってた方が良いでしょう。

で、あとちょっと簡単に説明しちゃうんですけども、静岡市内全小学校に子ども食堂を作りますよなんてことを言うとね、やっぱりそのユニークな取り組みってこともあります。そうすると、やっぱりいろんな方が興味を持って、携わってくれることもありますので…気を許すってだけで、皆さん興味を持って下さると。

あとですね（資料の3）ボランティアさん・体験学習。

例えば、この日やりたいだけでも、その時間帯はこちらと合わないっていうと、いやこちらでも開催してますと…こっちなんかどうでしょうって言って、そのやってくださる方のスケジュールに、割と合わせやすいんですね。

開催会場が広がっていけば広がるほど、あっちでもこっちでもやれますってことになりますので、そういう意味では広くやっぱり広げるのがいいかなと。

で、あとやっぱり、その長田学区の地区ですとね、本当に思ったのが、この自分の住んでる地域を良くしたいっていう意識が、やっぱりその強い地域だと僕思います。

その、長田地域ってすごく。

だからここまで広がっていったのもありますし、長田地域って大体この子ども食堂の数が多いい…人数が多いんです。

子どもたちの児童数が。

やっぱり地域性があるから、子ども同士で誘い合っとか・ボランティアさんも誘い合ったりとかして多いんじゃないかなかなとは思いますが。

やっぱりね、そのボランティアさんも、静岡市のためにやりたいなんて人は、ほとんどいないですよ。

あの自分たちが住んでるところを良くしたい・自分たちが住んでるところを、子どもたちに何とかしてあげたいという方が多いので、あのスタッフだけでやってると、自分たちの住んでる地域じゃない。

例えば、僕らが町ナカで子ども食堂をやったとしても、例えば長田の方が手伝ってくれるのか・竜南の方が手伝うのかっていうとそんなことないと思うんですね。

長田でやってるから、長田の子ども食堂を手伝ったり、竜南でやってるから竜南の子どもランチを手伝う。やっぱりそういう自分たちの住んでる場所を良くしたいっていう思いをかなえるためにも、やっぱりその地域で子ども食堂をやりたいということが一番大事なのかなと。

で、まず同じようにですね、いろんなものを貰ったりするんですけど、あと補助金も・あの協賛金も、そういったものもいただくことも努力してるんですけど、そういったものをもらうために、やっぱり広くやっていった方が、やっぱり皆さん・業者さんとかお声頂くことが出来るので、変な話、ダイコンがとれるシーズンだとか・タケノコのとれるシーズンとかに貰うとですね、やっぱりその…日持ちしないものだと急いで使わなきゃいけないんだという…やっぱり開催箇所が多い方が、捨てることもなく、そつもなく使いこなせる。

ですから、やっぱりそういった意味でね、補助金にしても・頂くものにしても・大きくしていくことの方が有用でございましてということで、地域に広げていきたい一つの理由にもなっております。

あとこの（資料の 3）地域ごとに違う子供たちを取り巻く環境ってことなんですけれども、やっぱりその工業地域であったり・山あいだったり・町ナカだったり・商業地域によって、子どもたちの育つ環境が相当違います。

まあ子どもの性質からするとね、山あいの子は結構おとなしかったりとか・人見知りの子が多いよとか・商業地域の子は挨拶がしっかりできてる社交性の子が多いねとか・海の方に行くとな、元気な子が多いよとか、そういうやっぱりこの…最初、本当そんなことあるのかなって思ったんですけど、子どもを見ているとやっぱりその通りなんですよ。

で、山あいの子は人見知りがなくなってきた、馴染んでいくと明るい子になったりするんですけども、やっぱり最初ね、知らない人にやっぱり距離をとったりします。

そうするとやっぱり、その問題が違うんですね。

商業地域だとやっぱり、食育…孤食の子が多かったりだとか、やっぱりちょっと貧困の子が多かったりだとか、山あいの方の団地が多いエリア行くとね、どうしてもやっぱりどうしてもシングルマザーが多かったりとか、少し経済的に苦しい子どもが多かったりもしますの

で、そういった意味で、そういった地域の違いとか、一緒くたに全部やろうとすると、やっぱりダメなんですね。

その地域にあった形の内容にしてかないと、やっぱり喜ばれないということもありますので、そういったものも含めてね、やっぱりこう広げていくことでこの地域はこうだ・この地域はこうだっていう、その地域にあった活動を…きめ細かい活動をやっているじゃないのかなっとは思っております。

で、やっぱり広げていくとね、周りの目も大変変わっていきまして、大変ありがたいことなんですけども、評価を受けるようになってきました。

そうなってくるとやっぱり、先ほど言ったように、その保健所さん…やっぱりその子ども…生活苦の子供にご飯食べさせるっていうのは、非常に危険なことなんで、なんか食中毒あったら一発で…やっぱりね一連の活動の有意義性・有効性っていうのが疑問視されますので、まずは、その調理師さんとか・保健所さんとか連携して相談する。

そのうえで食中毒の保険に入る。

やっぱり飲食店さんと同様に、何かあった時に対応できるように、保険に入っておこうか。

そのためにはやっぱりまず、その食品衛生責任者を飲食店に配置する。

で、先ほど言ったように、何か問題…子どもに問題があるのかとか・引きこもりの子はいないのかとか、そういった相談員さんを配置する。

で、小学校との連携を行う。

今後なんですけど、行政との連携を行うために、やっぱりある程度大きくなっていった方が負担もやっぱり軽くなりますし、やっぱりそうした責任のとれる活動になってくるんじゃないのかなっと思っております。

そういったためにも、大ききってものにもこだわって活動を行なってはおります。

で、そうは言いながらもですね、やはり全体機能というか・中心がないとですね、なかなかそのこう…みんな出ずっぱりの活動ばっか続けていくとですね…難しい。

やっぱりその…先ほど言ったように、引きこもりの子のもっとこうクローズな…でも内容の高いものをやろうとすると、やっぱりセンターハウスみたいなものが1個あって、そこで毎日開催できるとね、より良いんじゃないのかなとは思っているんですけども。

こういったものとね、一小学校区に一子ども食堂とは、別なんですけど、センター機能のある子ども食堂を一個作りたいなとは思っております。

で、今そこでちょっと今、パパッと話してきたんですけども、そういう段階で今やってはいます。

で(資料の4)4番のね【子ども食堂のその先に】って言って、これからどういうことしたいのかっていうと、ちょっとこう考えていることをお話しする前にですね、今現在その活動に対して、他の資料でちょっと説明させていただきたいなって思っております。

まずこちらの資料なんですけれども、60何校ある中で緑(色)でやっている(色付けされている)ところが、今やっている子ども食堂です。

で、左側ですね葵区の伝馬町子ども食堂、これまだ開催してないんですけども開催予定としております。

4月あるいは5月に開催予定です。

で、同じく駿河区のですね、これは載ってないんですけど、長田北小学校。これの方も同じく話の方が進んでおりまして、これも4月5月に恐らく出来たらいいかなと思っはおりますけれども、ちょっとタイミングが悪くなっております。

で、清水区の方の有度第一小学校。これもすみません。4月あるいは5月に開催予定です。一応対策後って言うんですけど、タイミング待ちになっております。

このタイミング待ちってのは一言で言いますと、その地域の協賛企業さんが見つからないからちょっと待ってる。まあ財テク難…掴めてないから今開催できません、というパターンと、財源はある程度抑えたんですけど、ボランティアさんのチーム編成がまだ出来てませんっていうことも、どっちかの理由で開催は決まってるんですけど、まだ開催できてない。で、この有度第一小学校の方は、実はもうボランティアさんの方が静岡県立大学さんと常葉大学さんとサレジオ学院さんの学生さんたち中心で、運営していこうと思っている子ども食堂となっています。

あの若い子がですね、子ども食堂にすごくボランティアに行きたいという要望がすごくあるんですけど、これ見てわかる通り、清水区・葵区・駿河区いろんなところでやってると、学生さんたちが来にくいって言うんですよ…バスで来たり・電車出来たりと、で迎えに行かなきゃ行けないとか、そうなってくると非常に大変になって、じゃいっそのこと学校に近いところで子ども食堂をやってですね、そこで学生さんたちだけで…だけでってはいえませんが、地元のボランティアを含めても、学生さんたちが中心で運営してくって子ども食堂があったらどうだろうって形で…まっ先生…教授の方とか・先生も踏まえて今お話をさせて貰っております。

その時にね先生…まあ島先生の方に携わってもらってですね、そういう話を進めてはいるんですけども、一回2月にあって是非是非って話になったんですけども、2月だと…4月に今いる子どもたちは4年生は3月にいなくなって、4月に新入生が入ってきて2月3月に話を進めても、ちょっとタイミング悪いよと。

ですから、4月にもう一回生徒向けにディスカッションを行なって行って、イメージを固めて行って、5月遅くとも6月くらいに開催を決めたいなっていう話はあるんですけども、そのために今ちょっとストップしております。

で、そういうふうにして少しずつお話を進めて行って、13箇所って言っはいるんですけども、実は60何箇所に対して13箇所っていうのは、5分の一ほど来たのかなあと思うんですけども、実は円グラフ見てもらうとわかるんですけど、毎月(チラシを)配布している児童数で換算すると、今の段階で静岡市の全小学校区の子どもの、4分の1にはうちのチラシを配布させてもらってます。

これ聞いた時に、意外と頑張ったなって思ったんですけど、これをまあ僕らは全部やりたい

と思っているんですけど、今何とか4分の1まで来たなといったところで、今振り返ってみるところなんですけれども、ただ今の体制だと、ちょっとまあここが限界だというのがあります。

あのどういうことかという、NPOになったにはなったんですけど、じゃあ静岡市が補助金・助成金を子ども食堂に出すかっていうと、まあ出してはいない状態の中で、僕らがいろんな企業さんとか・いろんな方からまあ金銭的なものを頂いたりとか・物の設備を頂いて何とかしてるんですけど、これは今日皆さんも含めてお話を聞いてくださった中で、そういう支援の輪が広がっていくのを実感出来るんですけど、支援の輪が広がって、活動が広がっていけばいくほど、実はやってるボランティアさんが、ハードになっていっちゃうんですね。

あの各子ども食堂のボランティアさんは、月一なので月に一回楽しんでやってもらえればいいんですけど、静岡市子ども食堂ネットワークとしての団体のボランティアさんは、あの要は仕事が増えていく。

で、実は僕も、後ろににいる八木さんも、あの後ろににいる八木さんは、現場の責任者っていう形で、全部の子ども食堂開催時にはついて回ってるんですけど、あの1円ももらってない状況なんです。ボランティアですから。

で、最初の1箇所2箇所の時は、僕らも楽しみながらやれたんですけど、10何箇所なんかになってくると、ほぼ毎日何かやってないと回らなくなっちゃうんですね。

で、これが15箇所20箇所になったら、正直ちょっと無理だと。

僕らの時間とか・労力とか・場合によっては、その金銭的なものも含めて、負担が今でちょっと限界なので、これ以上ちょっと難しいかもしれないとは思ってはいます。

ですからそこら辺をまあ何とか解決していかないと、せっかく4分の1まで来たところが、支援も広がって行ってこれからもっと増やしていく道筋は立ててるのに、団体側がそこまで広げていけない状況になってしまっているのが、今の状況なので何とかこう協力して下さる方をより一層増やして行ってですね、まあ物の協力・あるいは人の協力・あるいはまあお金の協力っていう形で、要は資産・資源を増やしていかないと、僕ら携わってる側が、ちょっともう息継ぎというか、もうアップアップになってるっていうふうになっております。

ですから、あのもっともっと広げてくださって皆さん応援して下さるんですけど、そのためにはすみません・ご理解とご協力がないとやっぱりちょっと難しいんだな…こういう活動はっていうのをね、僕らは初めて分かった次第です。

実は僕、仕事は理容院さんとか床屋さんとかに、材料を卸す仕事をしておりまして、静岡市内にね、いつも父親と一緒に回って仕事をしてるんですけど、で、その仕事の合間をぬって、まあいろんな子ども食堂とかやってるんですけど、増えれば増えてくほどだんだんこの仕事を圧迫してくるんですね。

でも仕事圧迫したくないし、こっちもやんなきゃいけない…じゃあ仕事が終わった後、夜や

る。

そうするとやっぱり、その7時ぐらいからやって、9時・10時・11時までやって…やらなきゃいけない。

すると最初は好意的だったうちの嫁もですね、毎晩そうなってくるとね、良いことしてるのはわかるけれどもそこまで犠牲を自分たちがしなきゃいけないのって、やっぱりこう言うわけなんですよ。

まあその通りって言ってるんですね。

で、八木さんも同じく、あの協力くださってることに対しては、旦那さんご理解して下さってくれてるみたいなんですけど、やっぱり忙しくなっていくと、帰りが遅くなるとね、やっぱりそこまでしなきゃいけないのって話になっていきます。

できるだけその仕事をしてくれるボランティアさんが増えることも大事なんですけれども、どっかでやっぱりその八木さんのようにやってくださる方を…有償ボランティアじゃなくて、やっぱり有給・有償のスタッフとして、雇い入れていかないと、これから先はちょっと維持ができないかなとは思っております。

で、すみません。それでそういう話がまとまった中で、その（別紙資料に）【協賛企業さんと内容】ってことが書いてあるんですけれども、この企業になってもらう段階でですね、タカラ・エムシーさんまあフードマーケットマムさんなんですけど、あの非常にご理解いただきまして、発起人の一人になっていただいたのと同時に、協賛金も毎月頂いております。

で、アイワ不動産さん。こちらですね、あのこちらは発起人ではないんですけれども、主旨の方をすごく理解していただきまして、協賛金だったりとか…あの団体の協賛金に限らず、井ノ宮北小学校の地域協賛をサポートしていただいたり、チャリティコンサートの義援金とか、そういったものもいろいろサポートして頂いております。

あと大和証券さんも、協賛金・団体の協賛金を頂いております。

で、長田のこの田形青果さんですね、長田東とか、あと長田南の活動をみていただきまして、地域協賛っていう…毎月2万円なんですけど、出して頂いております。

で、先ほどさっきのワカスギさんですが、団体協賛っていうのもあるんですけれども、こちらのほうは社長さんのご意思でですね、お金ではなく物としてですね、開催会場には冷蔵庫が無い会場もあるんですけど、保健所の指示で冷蔵庫は置きなさいって指示があるんです。

で、いろんな事務機器をレンタルしている会社なものですから、そんな中で貸し冷蔵庫を…わざわざその日に冷蔵庫を持ってきてくれて、終わったらその冷蔵庫を回収するっていうね、非常に手間なことをしていただいております。で大変助かってます。

で、駿府ライオンズクラブさん。こちら年間協賛いただいております。

で、株式会社ヤマザキさん。お豆のヤマザキさん。もう一品欲しいなのヤマザキさんなんですけれども、お惣菜としてその食材を頂いております。

それと同時に今度、社長さんと一回面談をしてですね、じゃあお金としての協賛金とか・補助金そういう年間協賛とか、そういったものを踏まえて、お話をしようっていうことになっ

てはおりますけれども、社長さん…話を聞くと社長さんは非常に前向きなんですけども、会長さんがちょっと待てと止められるそうなので、まあ親子の中の関係だと僕らは何も言えないので、ちょっと待ってる状態ではあります。

あとこれすみません…ご紹介があったんですけど、この長田の N'S 静岡さんという企業さんなんですけれども、ハウスクリーニングとかそういったもの…事をされている会社と僕は聞いているんですけども、そちらの会社さんの方で、長田南の協賛金を頂いております。で、今度ですね 100 円ショップレモンさんとかですね、お話の方を頂きまして、どういう協力ができるのかと一度お話をまた詰めていく予定になってます。

で、伝馬町小学校の開催するところの財源なんですけれども、こちらの方は商店街がありまして、僕も知っている…仕事で行っている床屋さんになるんですけども、飯沼さんがその活動をしている中で…僕は地元伝馬町出身だから毎月 2 万円は払えないけど、5000 円なら払うよって言うてくださってる、そういう方がいらっしゃいます。

で、その 5000 円を…変な話、毎月子ども食堂を開催すると 1 万 5000 円くらいかかります。会場使用料・30 食の食材費で、あとチラシの印刷代・そして食中毒の保険加入。それだけで 1 万 5000 円。

で、会場使用料がちょっと高かったり、会場が 40 人 50 人も増えていくと、2 万円ぐらいかかってきます。

そうすると 2 万円あればなんとか足がでずに運営していける…運営していけるということは、長く続けられるということになるもんですから、何とか 2 万円の枠を抑えていきたいなっと思っておりますけれども、一企業さんが 2 万円出していただきますと、アイワ不動産さんみたいに非常に楽なんですけれども、そうでなくとも…いやその企業さんや、もしくは店舗さんが毎月 5000 円がその地域に 4 件あれば…2 万円確保できる。

そしたらもうその子ども食堂はお金に困らずに、ずっと続けていけますってことができるんですね。

ですから、僕らは企業さんとか大小問わずに、とにかくその地域の子どもたち、あるいは保護者の方に、ご商売している方とか・社員の方がいらっしゃれば、何かしら還元するとか、その方が特に地元であれば、そういった思いを地域の方に知ってもらったりとかそういった意味で、協賛してくれる額にはこだわらず、もちろんその規模に依ってっていうのもあると思うんですけども、なにかしら係わっていただければ、それでもう子ども食堂を支えていきますよという形も、いろんなパターンをね、出していきたいなっと思って、どうしてもこの大きい企業さんを（資料には）書いてしまうんですけど、やっぱり地元の小さなお店屋さんとかも、ご協賛いただければ（チラシに）書いていきますよって形もやっていきたいとは思ってますけれども、意外と小さい規模でやってらっしゃる方々は、名前載っけなくていいからってことになっていらっしゃったりとかして、名前を載っけるっていうと協力してくださってる企業さんもいる。

あと面白いところで精肉店さんなんですけど、肉の加工処理・加工をしてらっしゃる会社さ

んで、メーカーさんからこういう肉をカットして卸してくれって言われて、判りましたカットしますと…その時に、その仕入れして・カットして・卸してるそういう会社さんなんですけど、仕入れてカットすると、こう歩留まりって言うんですかね…要はカットして、まだ食べられるんだけど卸せないっていうものが溜まってっちゃうそうなんです。

で冷蔵庫に…もったいないからって冷蔵庫にしまっていて、年に1回とか地域の方に、なにか作ってあげて食べさせたりとか・社員の方に差し上げて食べてもらっているそうなんですけど、使いきれなくて…産廃としてお金を出して捨ててくしかないといった時に、じゃあうちに寄付すれば有効に使ってもらえるんじゃないかっていう形で頂いてはいます。

でもそれはちょっと、こう名前は出せない。やっぱりあの産廃として本来は捨てなきゃいけないのかもしれない…メーカーさんとかは何も言ってこないんだけど、商売としてはどうなんだろう…やっぱり捨てなきゃいけないのかなあっていう所が、非常にデリケートの部分があるので、だけど捨てるんじゃあまりにももったいないし、僕らもお肉買うのにすごく苦労してますって言ったもんですから、じゃあ使ってくださいって、今、使わせてもらっています。

なんかお肉2~300kgあったんですけど、サイコロステーキとか・豚のバラ肉とか…去年1年間でほぼ全部使っちゃいました。

うちの13箇所です。

今鶏肉しかなくて…今度、全部使っちゃうんですけど。

そういう意味でも、無理のない範囲でご協力いただければ助かるなっていうのがあります。あの無理してご協力してくださるとね、大変になってしまうんで、無理のない範囲でも出来れば自分たちも携わっている地域・あるいは社員さんや・あるいは自分たちが育った地域・あるいは自分のお子さんが育っていく地域に、何かしら係わるのであれば、子ども食堂ってすごく有意義な活動なんじゃないのかなとは思っております。

で、これこういうですね(資料のチラシ)これ井ノ宮北小学校が…静岡市子ども食堂のチラシなんですけど、こういったものを毎月1回配布してるんです。

まあこれは、取り敢えず10月22日のメニューになっております。

ちょうどハロウィンの時期だったんで、ハロウィンをやりました。

お菓子のプレゼントをもらって、メニューはビーフシチューと、ちょっと洋食っぽい感じで開催しております。

で、まああの変な話…メニューはボランティアさんが考えるので、その地域によってボランティアさんが、今回はビーフシチュー・次回はこうしようって、楽しみながら決めてくださるんですけど、こちらの方でこれを…井ノ宮北小学校のショウブ子ども食堂だと…井ノ宮北小学校さんは何人ぐらいいるかっていうと…463人いるので463部を学校に持って行って、学校からの配布物として保護者の方にこれが全部手渡しできる事になっています。

ですから、井ノ宮北小学校区の小学生がいるご家庭463軒に届いています。

もちろん、そのお兄ちゃん・お姉ちゃん・弟くん・妹くんがいるとね、どうしてもお兄ちゃ

んが同じものを持ってきたって言って、被ってるご自宅もあるのかもしれないですけど、一応全部撒きますってことになっています。

で、この井ノ宮北…右下のですね、井ノ宮北しょうぶ子ども食堂を応援してくださっている企業さんってことで、アイワ不動産さんとワカスギさん。

まあアイワ不動産さんが井ノ宮北小学校の子ども食堂の地域スポンサーって形で、毎月2万円頂いてるものですから、井ノ宮北小学校で配布する表面には、こうやって描かせていただいております。

で（チラシの）裏の方なんですけど、これはあの裏面は一応全部共通です。

あの、協賛するところに、例えばここに駿府ライオンズクラブさんとか・アイワ不動産・大和証券とかママさんみたいな、こちらも年間に団体協賛する企業さんに関しては、どこの小学校でも見れるチラシに共通してる形のチラシを入れている。

ただですね、これ実はスポンサーさんがついてますから、こういう立派な紙で裏面ができてますから良いんですけど、アスクルに頼んでるんですけど、スポンサーがついていないとアスクルには頼めないもんですから、事務局にはお金がないんで、市内一円の生涯学習センターですかね…なんて言うんですかねあそこは…ええ番町市民活動センターに、誰もが使える印刷機がありまして、そうするとまあ複写機ですか…1枚1円でできるんで。

そうすると白黒なんですけど、格安でできますんで、そこに依頼するわけです。

そうするとですね、裏側はできないので、こっちの方が今できてる子ども食堂と、できてない子ども食堂があつてですね、ちょっとそれも問題があるので、来年度4月あるいは5月からは何とか13箇所の子どもの食堂…こういう裏表で（チラシが）できるような形でやっていこうかなって思っています。

ただそうするとやっぱり、そのお金がかかるので、何とかするしかないのかなって思っておりますけれども、表面はその地域のメニューとか・子ども食堂のルールとか必要事項なんですけど、裏面は子ども食堂ネットワークとして知っていただきたい子ども食堂の情報を、保護者の方全員に、この13会場の保護者の方全員に知っていただいて、そのこういう取り組みなんだ…こう言うふうになるんだっていう、例えばご飯を食べさせるだけじゃなくて、取り組みの意味としての情報を伝えていきたいんで、ちょっとお金がかかるんですけど、何とかやっていきたいかなって思っております。

で変な話…CSR活動の一環でお話を聞くと、地域企業として地域になんか貢献できるCSRとしての成果を、やっぱり求める企業さんがあります。

地域貢献をした方が良いじゃなくて、その地域貢献をした結果、どういう成果がその自分たちの会社に反映されるんだろうか、もちろんそのお金がかかった結果、こういう物が広告費じゃないんですけど、広告費として使ったイメージはないんですけど、ただそういうものを求められる成果がね、そういった事で認知されているっていう…そういうブランドイメージというのか、なんかそういった物が・人が必要な場合もあるんですね。

大きな企業さんって、地域貢献担当者さんがいらっしやる課があつたりだとか、担当者さん

がいたりとか、そうするとやっぱり投資となるんで、そういう集まりだとこういう効果もありますって説明できないと、活動としてただ良いからってというわけじゃない部分もありますので、こういったものも一緒にツールとして利用していただいております。

【4. 子ども食堂のその先に】

で、今そういったですね開催会場を、こうやって広げていきたい・こういう団体として支援を受ける・あるいはそういったその意義はこうある・ああ、あるっていったような事をざっと話させてもらったんですけどでも、じゃあこの後にどうしたいのかっていうのはさっきの（資料の4）4番【子ども食堂のその先に】っていう所に戻るんですけどでも、子ども食堂ってのはね、何度も言うんですけど子ども食堂を通じて、今の子育てとか・子供の情報とか・あっこうなってるんだってのが、やっぱり判る…僕らの頃とやっぱり今の子どもたちとは、やっぱり小学生の環境が違います。世界が違うので。

で、皆さんもやっぱり自分たちの小学校の頃と、今の子どもたちの小学校の世界とではわからない…違っても判らないと思いますので、子ども食堂に携わってもらってやっぱり判るんですね。

全部じゃないですけど、一部はわかりますので、そういった意味で携わることになると、子どもたちにもっとできることがあるんじゃないかと考えられる場所として、非常に有意義ですので、もっともっと携わっていただきたいと思います。

それと同時に、せっかく携わるんだったら、子どもたちの環境をもっと良くしてあげたい・もっと良くすることができるのが子ども食堂だって。

じゃあ、その環境づくりを手伝って行きたいなって思っております。

で（資料の4）【地域の保護者さん・住民・ボランティアさん・教育機関・行政・企業・団体が負担なく強みや特色を生かした携わることが行えるネットワークの構築】を進めていきたいなど。

行政は行政・教育機関は教育機関・僕らのような団体は団体・ボランティアさんはボランティアさん・皆さんのような企業さんは企業さんの中で、今できることの強みってのは全然違うんですね。

そういった時に、一つの世界だとできないことも、たくさん係わってくればできる。

僕らの得意分野だとこれはできないことが、そういった部分で取り敢えず（みんなが）携わって、一つの世界を構築すれば、たぶん子ども食堂を小学校に1個ずつ作れる。おそらく。ただ全部を一人でやるっていうと、すごく大変になるっていうのはおかしいんですけど、じゃあどんな役…僕は〇〇ができますよとか・ああ僕たちだったら〇〇はできますよとか・ああじゃあ僕らはこういうことをやりますよとか・僕たちもできますって役ができれば、たぶんできない地域でも、やっていくうちに不足分が見えてくれば、その不足分を何とかしようって方が必ず出てきますので、そういった意味で一番大事なのは、なんていっても子どものために…資産、いろんな意味での資産が増えてくると、たぶんいろんな方が集まってくるの

で、いろんなことができるようになっていくんじゃないかなっとは思っています。

でこれも大事だと思うんですけども（資料の4）地域文化の一つとして定着しなきゃダメなんじゃないかなって思うんですね、今の、はやりすたりで、1年間だけだとか・そういうんじゃないかなって、昔あった子供会みたいに、もう10年20年30年その地域で子ども食堂があるって当たり前みたいな…そういうふうになってこないとダメなんじゃないかなっと思っております。

ただ子供会ってね、持ち回りで役員が決まっているから、やっぱりちょっと大変なんですよ。負担が大きくて、僕も去年自治会の組長で参加したんですけど、ちょっと難しい・できればやりたくない。

でも子ども食堂はやりたいってボランティアさんがいますので、持ち回りじゃなくてもやってくれる方が、常にいますから、そうした中ではね、文化として定着しやすい活動なんじゃないかなっとは思っています。

で（資料の4）【地域の子どもたちを地域のボランティアさんが面倒を見て地域の企業さんがサポートして地域の学校が理解して地域の保護者さんが感謝してくれるそんな地域で完結するの活動】を、構築していきたいなっとは思っております。

あの大きな事業…さっき言ったようにその、じゃそのママさんだったりとか・アイワ不動産というふうな企業がお金を融通する、それだもんで地域協力ってことではなくてですね、僕らはあくまでサポートだったり、責任を…まあ僕らがこういうことによって、まあ指導をしたり、一緒にこう…一緒に（企業さんと）両輪となって子ども食堂を増やしていくとかするんですけど、僕らも支店のように増やしていくわけじゃないんです。

やっぱりあくまで主体となるのは、地域のボランティアさんがその地域で携わっていく。

その場合は、地域で完結するためにはですね、やっぱりその地域のボランティアさんが、地域の保護者に、まあお子さんのために地域の企業さんなりにサポートを受けてやっていくっていうのが、一番大事なかなっとは思っております。

で、これ（資料の4）一番下に書いてあるんですけども【悲しい事件を少しでも減らしたら】やっぱりねいろんなニュースが子どもたちのニュースだったりとか出てくると、理論と理屈とか抜きに純粹に、やっぱり嫌なんですね。

やっぱりそういうニュースを見るのが…見るときに。

で、それをこう防ぐことって、やっぱりこう出来ないのかもしれないんですけども、でもその子ども食堂をやることによって、もしかしたらそういう引きこもりの子もそうですし、いじめの問題もそうですし、何かちょっとでもそういったものをこう一助でもね、防ぐことができるのであれば良いのかな・喜んでくれる人ができたらいいのかなっとは思っております。

そういう子ども食堂を目指してるんですけども、何かしら子供に携わるこの活動っていうのは…やっていきたいかなっとは思っています。

まあちょっと今、すみません…ざっと話して1時間ちょっと話させていただいたんですけど

れども、子ども食堂の現状の、今の中身をこういうふうにして行きたいなっていうのを話させていただいたんですけれども、これでまあ、すみません。ザラッとザラッとなんですけれども、あともう一件だけすみません。補足なんですけど、本当に貧困対策だけをやっている子ども食堂さんがあります。静岡市内に。

それは静岡市さんから補助金を頂いて、なんというのかなリスト化されたお子さんたち。それは生活の保護を受けていらっしゃる家の子どもたちだけを対象にしていると、一般のボランティアさん…まあそれは子ども食堂と言えるのかどうかはわからないんですけれども、子どもたちにご飯を食べさせるっていうことについては、まあ近しいことなんですけど、そういう活動をしている団体さんも静岡市の近くでございましてけれども、それとはまた別に、地域の子ども食堂が広がっていくのは静岡市だけじゃなく、どこのいろんな地域も広がってはいるんですけれども、ただこれをネットワーク化していこうってのは、実のところ非常に少ないんです。

僕が一番危惧してるのは先ほど言ったように、保険の類であるとか・やっぱ保健管理とか・そういう安全面・責任面っていうのを意外と子ども食堂やってらっしゃる団体さんは、まあ善意が先に来て、そういったことは後回しにしてたりとか…後回しにすることが多いんですね。

そうすると何かあったら子ども食堂自体がやっぱりこう、逆にマイナスのイメージになってしまう可能性があります。

よくイベントで楽しそうだから…流しそうめんだとか・子どもたちにご飯手伝ってもらって一緒に作っていかうって話とか、アイデアはいっぱい出てくるんですけど、それを保健所さんに持っていくと全部断られるんですよ。

流しそうめんダメですと。食中毒の発生率が非常に高いからダメです。子どもたちの食事（調理）ダメです。子どもたちが原因で食中毒が発生した時に、原因がその子たちに、なにかしらそういったものが至らなかったのではと。

そういつて言われれば確かにそうですねって話になります。

生卵は使うとか・目玉焼きは半熟はダメだとか、やっぱそのすごうるさいですよ。保健所さんは。

でもうるさいのは逆に言うと、せつかくの子ども食堂がそうなったときに、やっぱ被害を被るのも・そして犯人になってしまう可能性が高いと、やっぱり子どもの場合だとね…やっぱり本当にこうダメなものはダメって言ってくださるものですから、僕らは非常に助かりますけれども、まあそういったことを守ってやっていきたいんですけど、そうするとやっぱり非常にこう、うるさいことを言わざるを得ない団体になってきてまして、ボランティアさんが…あれやりたい・ダメですとかね、止めなきやいけない部分があるものから。

まあそういったものも含めて、責任を持つNPOになりましたんで、やっぱり責任を持った活動をしていきたいなとは思ってはいます。

まあ普段のイメージなんですけど、これ受付です。

ここに書いてもらいます。

あの一覧表がありまして、子どもたちが来てですね…名前・学年・クラス・年齢…年齢は書かないのかな？電話番号とかそういう個人情報は書かないんですけど、どこの誰クンか・どこの誰さんかわかるようにはしております。

で、食事をみんなに食べてもらうんですけども、子ども食堂のボランティアさんによっては、全員座らせて一同に頂きますっていうスタイルにこだわっている子ども食堂のボランティアさんもあれば、ああ来たもんからもう食ってけって言う、そういう自由に食べさせる子ども食堂さんもあります。

で、学習の方も結構ですね、家の方から宿題・テキストを持ってくる場合もあれば、本当はダメなんですけど、学校の帰りにそのまま寄って宿題をやってく子もいます。

僕としてはね、学校の帰りにそのまま寄ってくれる方がいいんですけど、学校としてはやっぱり寄り道は基本よろしくないと言っている手前ですね、子ども食堂とはいってもね、そのまま寄っていいものかっていうと、ちょっとその意見が分かれるところなものですから、何とも言えないんですけど、そこのところは子どもたちの自主性に任せてはおります。

それですね、そこに来てくださっているこの方…公文の静岡の支部長さんで、昔そういう事をちょっと覚えられた方なんですけれども、で、こちらの方は学校の教員の先生で、まあ教えるってことが好きで学習の方をやってくださってるんですけど、実は小学生の宿題とあってあの普通の…そんなに難しいことはないんで、誰でもできるんですけども、そういうボランティアさんが来ていただいております。

で、これ学生ボランティアさんなんですけど、こちらもちょうと簡単に見ていきますけど、大学生さんなんですけど、教育学部であったりとか・社会福祉学だったりとか・あるいはその保育学とか、そういうふうな子供に携わる、あるいは社会のことを考える方・学生さんが意識的に来てくださってる率が非常に高いです。

大体学生さんとかボランティアさん…いろいろ食事も手伝ってもらったりするんですけど、基本的には子どもたちと遊ぶことでいいのかなあと思っております。

お兄さんとお姉さんと遊ぶことで、やっぱちょっと上の世代と携わることで、子どもたちも素直になったりとか・楽しくなったりしますので、実はこれは高校生なんですけど…大学生クラスになってきますと将来自分が子どもをね、育てたりとか携わったりという一つのこの予行演習になったりするのかなとは思ってます。

いろんなことに携わるって時には、そういう学生ボランティアさんが、かなり独特のポジションで場を盛り上げたりとかしてくれまして。

で、最後これ…ご飯食べたりとかしてるんですけども、基本小学生の子が中心なんですけど、やっぱ学生ボランティアさんもね…20歳前後なんですけど、言い方おかしいんですけど、まあ子供っちゃ子供なんですね。

図体がデカイ子供みたいなのがありまして、特に一人暮らししてたりするとね、子ども食堂で一食食べていければ浮くのかなあなんて思いながらね、ボランティアとしても使…使

ってはいますけれども、基本半分ぐらいね、子ども食堂に来てくれる…まあ子どもっていう認識でいろいろ教えたりもします。

お米のとぎ方が全く分からなくて…お米炊ける？って言ったら、炊ける！って自信もって言ったんで任せてみたら、水の量を倍ぐらいにして…開けた瞬間、お粥みたいにドロドロになって、なんで炊けるって思ったの？って言ったら、いやできると思ったからなんですって言われたんですけど、あのそういったものも含めてね、特に女の子なんかはね、食事の手伝いをするによって自炊しない子も結構多いんですけど、まあちょっとでもご飯が炊ける程度にね、やっていただければいいのかなあって思っております。

で、これボランティアさん同士の交流なんですけど、あの地域のボランティアさん…このこちらの出身でこちらの方がね、それ以外のボランティアさんで男性の方がおっしゃったんですけど、地域の方は地域の中で、ただの仲良しだけじゃなくて、仕事を通じてより深く知り合うことができたりとか・地域のボランティアさん以外でもこういった事で、ミーティングなんかしながら楽しくボランティアしていただいています。

これクリスマスカードで、これも体験(学習)なんですけど、まあその地域に応じてですね、まあ…あの体験学習・あるいはその季節感をね、やっぱりこう知っていただきたいなとは思っておりますので、まあこういった楽しい思い出作りも併せてやっております。

まあだいたい…こんなようなふうにはやっていますけれども。

で、一応そんな形でですね、すみません。用意させてもらった資料を説明させていただいたんですけども、逆に今こういう話を聞きながら、ちょっと今まで持ったイメージと違ったんだなっていう思いを持っていただいたりとか、あるいは逆に…逆にちょっとわかんなくなっちゃったぞってところもあると思います。あの…どうということ何だろうみたいな。

詳しく知っていただく中で、もし今出資したいなとか・聞きたいよとか・質疑応答という中でですね、ちょっとお時間の方をちょっと頂ければと思いますけれども…何か疑問とかございますでしょうか？

《質問》

すみません…食事の写真が一つだけだと、どんなメニューで・どんな食事が出るのか興味があるんですけど。

《飯沼理事長》

それはですね、その地域のボランティアさんのやる気によって…全然違います。

やる気のあるボランティアさん…やっぱりその小鉢にのっけて3品4品作ったりとか、手間がかかる…かけるんですけどでも、その…その地域のボランティアさんが二人しかいなくて、もうテンテコマイだっていう地域はもう軽い。

牛丼とか…もう…一杯でやれるような、そういうメニューになることも多いです。

ありがとうございます。

《質問》

すみません。そこにお子さんもですね、まあご馳走様してお手伝いするようになって書いてあるんですけど…やっぱしてくんですか？ちゃんと？

《飯沼理事長》

基本的には食べたものをまず持って行く・自分の食べたものは片づけるってことは、最低限させます。

で、そのあとに例えば、こうこういうテーブル（の位置）を直したりとか・お掃除とかするんですけど、その時間帯まで残ってくれる子がいれば良いんですけど、それがいろいろ習い事があるとか・あるいは外の公園にみんなで遊びに行っちゃうとか、そうするとそういう手伝いはしない・出来ない子もいます。

逆にそれ以外の上の子が下の子の面倒をみたりとか、一緒に遊んであげることもひとつの、僕はボランティアなのかなあって思ったりもしますし、一緒に鬼ごっこしたり・1年生・2年生の子を5年生・6年生の子が面倒をみたり、それもまたそれはボランティアだと僕は勝手に思ってるんですけど。

あとですね、あくまでもね、貧困なイメージがつかないようにという努力はされているとは思いますが、やはり30食まあ一応限定という中で…みえてくれたお子さんたち…そうは言っても本来この子たちにやりたいっていう問題があると思うんですけど、その選別というか、それは難しいと思うんですけど…

すごく難しい…ボランティアさんも同じことをおっしゃいます。

あの30食とか50食ぐらい…いくら作っても、じゃあ30食に対して50人来る・50食に対して70人来るとやっぱ断らなきゃいけないっていった時に、じゃあこの子はまあ変な話…まあ大丈夫だ・裕福だ。

こっちの子は本当に一食でも食べさせてあげたいっていつかの判断が出来ないんです。本当に出来ないんです。

で、情報が入ってきて、この子の親御さんが大変らしいよってというのが、まあ噂でも入ってくれば優先的に対応とか出来るんですけどもじゃあそういう情報が入ってくるのかというと、入ってくる場合もあれば、入ってこないことが多いです。

そうすると、そこらへんが本当にどうしたらいいのか判らなくて、で、もう前向きな言うか…そのエネルギーのあるボランティアさんは、じゃあもう断らないように来る子全部に食わせてやろうって、大変な思いをして作られてる方もいらっしゃる。

でもそうすると今度、逆に僕らの食材費が予算がありますから、じゃあ30食を70食作ろうっていうと、やっぱりその分、係る経費に関しては…すみません、そこまではっていうのはやっぱり正直あります。

《質問》

それはやっぱり断れる？

《飯沼理事長》

そうするとやっぱりもうそこから先は断らざるを得ない。

で、ボランティアさんによっては 30 食・50 食は出来るけれども 70 (食) となってくると正直もうシンドイ。

ボランティアとしてやっぱり大変な業務の量を続けられない。

それはそれでやっぱり問題があるってことですが、その貧困…本当に絶対的な貧困というのは、先ほどおっしゃったように…先ほど話したように、それに対応する団体さんがあるって…子ども食堂でなくともそこに行けば毎日ご飯が食べれますよっていうのがあるんです。静岡市さんで用意されてます。

相対的貧困が見えないんですよ、その子が…

《質問》

まあ僕らちょっと違うんですけれども、僕ら年一で毎年恒例の餅つき大会っていうのを 12 月にやって、ちびっ子ランドって言うんですけど、そこではやはり搗いたお餅をですね…黄粉だったり・餡子をつけてお配りするんですけど、言っちゃなんですけど…やっぱしこう意地汚いと言っちゃあなんですけど…何回も取りに来たりとか・やっぱりあったりしてまして、で逆に月一でやられる子ども食堂に毎回この子いるけどっていう子とか？

《飯沼理事長》

毎回いるって子は…常連の子はいます。

でもそれは楽しいから来てくれる。

やっぱりお腹一杯食べれるから来てる子なのかっていう判断が、何となく見える子もいます。

やっぱりその言い方は悪いんですけど、暗い感じの子とか・やっぱりこう身なりがちょっとこう汚く見えるとかっていう子がいます。

かといって、じゃあ貧困なのかってイコールは出来ないんですけど。

やっぱり管理者としては気になります。

で、場合によっては、そういう子が来にくい子ども食堂があります。

あのクラスで強いグループっていうとおかしいんですけど、強いグループの子が来ちゃうと貧困とかちょっとこう行きづらいなって子が出てきます。

僕もあとから八木さんから聞いたことがあるんですけど、ある子が来て、その強いグループの子どもたちに、お前は来るなよって・なんで来たんだよって言われて、その子はここへ来ちゃいけなかったんだって泣きながら帰ろうとしたという話を聞いたときに、そういうこ

とがあったら、八木さん、そういう子に関してはね、本当はそういう子のためのものだからって、すぐにフォローして子どもたちの前でやれなかったら、ボランティアさんに頼むなりね、サポートしてあげてねとは言ってはいるんですけど。

その大人がどれだけやっても、子どもたちの世界って難しい部分があるんですよ。その子どもたちの世界は。

だから本当に子ども…貧困の子どもなのか・貧困の子どもたちに届いているのか・あるいはその必要な子供たちじゃなくて、もっと恵まれてる子どもたちのためになっちゃっているのか…正直判らないです。

でも判らないとなったら、もうやるしかないって…判らないから他にいい方法があればそれをしたんですけど、今はやるしかないってことで、今やり続けているんですけど。

で、もっともっといい方法とか・もっともっと広域的で効果的な方法っていうのが、今後出てくるかもしれないんですけど、今はもう取り敢えず続けていって、こういう問題もある…対応できてない…本当にサポートが必要な子が来にくくなってないかとか・本当に食べれない子が優先的に食べれるような子ども食堂になっていくのかどうか…一切判らない。

じゃあこの問題がどうやったら解決できるのかっていうことを、考えられるようなステージにまず行かなきゃいけないのかなとは思っています。

そのためには、じゃあ地域の情報だったりとか・あの学校からの情報だったりとか、そういったものをやっぱりこちらの方の現場の方に落とし込んでいかないと、現場でわからないことも多いんで、まずはそういう問題も抱えながら…無駄もあるとは思いますが、やっている状態であります。

皆さん…子どもの頃って子供会ってありました？

あの皆さん小学生の頃って…幸せな小学生でした？振り返ってみて。

僕ね、あんまり幸せって感じ…幸せじゃなかったんですよ。

あの親が二人とも働いてましたから、お金はあったんですよ。

お金はあったんですけど、父親が帰ってくるのが大体8時過ぎだったんですよ。

僕が小学生の頃6時ぐらいにはもう、お腹へっちゃうんでなんか食べますよね。

で、8時ぐらいまで…まあテレビ見たりなんかして、下手したらもう寝ちゃう。

で、その頃、子どもにはそんなには手がかけられない。

で、要は今でいう所の…ネグレストじゃないんですけど、ちょっとそういう所があったんですよ。

放任主義というかネグレスト…あんまり手間をかけられてないという中で、僕らはそれはそんなこと考えたことがなくて、当たり前だと思ってたんですけど、やっぱり学校に行くと支度ができてないとかね…やっぱり違いがあるんですよ。

僕らあんまりそういうの用意されてないとか。

で、ある時気づいたんですけど、全然弁当も作ってくれなかったり…そうなってくると、やっぱり違ったしあんまり学校も楽しくなかったし、なんか違うなっと思いつつ学校行っ

てましたし、すごいイジメを受けたわけじゃないですけども、やっぱりイジメられる側でしたし、やっぱそういった意味では、特別その何かあってイジメられたわけじゃないんですけども、やっぱりこうなんかこいつ違うっていうような子どもたちの…ある意味こうハブられるっというか、あったんでしょうね…性格の問題じゃないんでしょうけどもね。

で、ある会社の社長さんが、僕らのホームページ見て来てくれて、あのお菓子とか載ってるカタログをパッと渡されて…もういくらでも選んでいいです。この中からって。パッと。

で、飲食店…食品に携わる会社でもないし、何も出来ないんだけども、お金も渡せないんだけども、僕がポケットマネーの中でとにかくお菓子だったりとかなら買える。

なんでそんなにするんですかって言ったら、その方もやっぱり小学校の頃やっぱりひどいイジメというか…家庭環境っていう問題があって、思い出したくない小学校の頃を。

本当にひどかった小中学校の頃を。

まあ社会に出て一生懸命働いて、で今は人から見て…その自由になれたんですけど、やっぱり自分たちの生活環境が人とちょっと違ったことで、イジメられたり・悔しかったということ、あんまり今の子どもたちは…もし自分と同じポジションの同じような環境の子だったら、少しでもこう和らげることをしてあげれば、大変こう救われるんじゃないのかなって、その方がおっしゃったんですよ。

で、僕も飯沼さん…なんでこういうことを始めたんですかってよく言われるんですけども、例えば僕も、あんまり小学校の頃、良い環境の子どもじゃなかった…どっちかっていうと…親には食べさせてもらって感謝はしてるんですけど、環境としてはね、やっぱこうもう少し愛情が欲しかったかなとか・手をかけて欲しかったのかなってことがあるので、やっぱこう自分と同じような子供がいたら、何とかしてあげたいとか・自分が子どもの頃こういう活動があったら、だいふ救われたかなとか、やっぱそういうのを思ってしまうと、やっぱり作ってあげたい・やってあげたいに…なんとか僕のためじゃなくて、僕みたいな子供が今いたら、何とかしてあげたいっていうやっぱりそういう立ち位置で・目線で見るときに、やっぱりやらないといけないのかなと…本当は僕が見に行った時にこんな子ども食堂なんか頑張ってる気はなかったんです。

ああ、こういうことなんだと。

じゃあ誰か子ども食堂をやったら、その手伝いをしようぐらいの感じだったんですけどでも、やっぱり戻ってきたときに手伝おうかなって思ったらやってません・入ってませんか・保健所にこう勉強してませんか・それは危ないんじゃないのかなとか…逆にそういう所に僕の子どもが行くと思ったら、大丈夫かなとか…やっぱそうなってくると、そこに手伝った事によって、なんかあった時に被害が増えてしまうんじゃないのかなと。

人様がやってる活動を…それはおかしいなんて言うのも、それも失礼なことなんで、これはもう自分が…ここだったら安心で・安全な・こう納得ができて・周りからも・ここは問題ないと評価いただけてる…そうやって僕みたいな子供がいたらこう助かる・救われる・報われるような子ども食堂だったら、非常にいいのかなと。

で、まずはやってみないと判らないし、やっていく中で至らない点とか・大変って点が出てくるんですけども、もうこれもこうして話して、話す機会であるですか、島さんみたいなこうやって協力してくださる方がいろいろ手をまわしてくださるとか、そういった中で足りない分…足りない部分を少しずつ薄くして行って、みんなで活動していく。

それがいつか今よりも、すごい完成度が高くて、そんな子どもにとって意味のある・地域にとってすごく意義があって、携わる方みんながね、非常に親しい・携わることによって得られることがあるようなシステムや文化としての子ども食堂が、地域に根付けばいいのかなって。

振り返ってみれば10年前って、依然こんがらがって…備蓄もすることができなかったところがね、そこからスタートして、ここまで機能的になったよねっていう事になれば、一番いいのかなって。

会社もそうだと思うんですけど、最初の一步目って一人で始めて、要するに家族で始めて、携われるのもこのぐらい・商品もこのぐらい・人もちょっとしかいない…そこで一生懸命頑張って・少しずつお客さんの数を増やして行って・商品を増やして行って・販路なりその売れていくところを携わる技術を段々増やしてって、で最終的には皆さん…こう大きなもの・しっかりしたものになって行くと思うんですけど、やっぱり子ども食堂も、本当に一人二人で始めていくところから、やっと少しずつこうやれるようになってきたのかなあってタイミングだもんですから、まだまだもっとこうしたらいいっていうのもあるんですけど、でもそこに関しては問題は…ちょっと考えればいろんな問題はあるんですけど、それを解決できる道筋は今はないので、まあ手探りの中でやっていくしかないのかなって思っはおります。

あとはまたその…皆さんみたいな企業さんとか僕らとかボランティアさんとかの話は、割と早いんですけど、どうしてもあの行政とかやっぱりそういう公的機関との連携も、子ども食堂は大事ななとは思っはいるんですけど。

まあ島さんみたいに頑張ってくれてはいるんですけど、やっぱりなかなか行政はね…一度携わるとやめたっていうのはできないので、やっぱり向こうもどういう携わり方が一番正しいのか判断しながらだと、どうしてもやっぱり遅くはなる。

やっぱり（行政ではなく）一般が間違いなく携わっていかないと、子ども食堂はというか…子ども食堂に限らず、子どもたちを何とかする活動っていうのは、今後はもっと…もっともっと大事になっていくのかなあとは思っはます。

やってみてフツと思ったんですけど、どこの業界も人手不足で人手がないんです。

で、特に建築の世界は、海外の方だとか・外国人がやっぱり入ってくるんですね。

と同時に、日本人で働けてない子って結構多いんですよ。

そう思った時にじゃあ、日本に来る外国人の方って地元…自分の国では多分エリートなんですよ。

日本に来てる・行けるっていうだけで。

でもその時に、じゃあエリートのタイとかフィリピンとかベトナムの人が仕事をしてくれる…それはそれで素晴らしいんですけど、エリートじゃないけども、ちょっと引っかかって、つまづいちゃった子だけ、日本人の意識とか価値観持ってやってくる子の、どっちが良いんだといった時に、どっちも良いんだと思ったんですよ。

と思ったらこう、つまづいちゃった日本の子どもたちが、何か自分たちの将来の仕事として、じゃあ家族を養えるようになる仕事に就ける道ってあるのかなってなると思ったら、意外と無いなっというふうに気が付いたんですね。

あの…良い学校行って・良い大学卒業して、そうやっていっぱい学べば、スキルを学んでいって技術者の道ってのも、あるんでしょけれど、一回引きこもりになったりとかしていくと、なかなか広げる道がないという…まあそれって少子化の中で、それをやってく中でね、すごいこうこんな言い方でいいかわかんないですけど、資源のロスとか無駄なんじゃないか・もったいないことをしてるんじゃないかと思うんですね。

まあ子ども食堂やっててどうこう出来るわけじゃないんですけどでも、週一でできてる子ども食堂に来ている女の子とか、すごくいい子なんですけど…学校行けないんですけど。

で、アイワ不動産さんの職場見学させてもらって…お母さんが働いてなくて、お父さんがいないもんですから、家族の中で働いてる人がいないんですよ。

働くってことが判んないんです。

働かなくても食べていけちゃう。

シングルマザーで、お母さんは家を出ずに…そうすると働かなくても食べていけちゃう。働くって何？

だから働いてくっていうことを学んでもらうために、学校っていうよりも、その会社に行つてね、こうやってお給料もらっていくんだよっていうことをね、あの見てもらったりしてます。

やっぱりこう…でも質問にしても・受け答えにしても、こう…その子すごくしっかりしてるんです。

だからもったいないなっ。

で、4年生なんですけど、学校へ行っていないんです。2年生ぐらいの時から。

で、平仮名が怪しいんですよ。

書けるのか書けないのが。

足し算は出来るんですけど、たぶん掛け算ができないんじゃないかと思うんですよ。

まあでもいい子なんです。

でも勉強ができないんじゃないなくて、学校に行っていないから教わる機会がなくて、親御さんが学校に行かなくていいみたいなスタンスなんで、すごくもったいない何とかしたい…だからそういう子たちを何とかできるプログラム、子ども食堂はちょっと外れちゃうんですけど、子ども食堂を通じて得た情報で、何とかその子どもたちをね、将来をこう幸せな家庭を築けるような道筋が作れることができるようになればいいんじゃないかなとか思います。

そこまでは…またまた大変な道のりなんですけども、なんかそういう子たちをみるとね、専門的な技術とか・学歴とか・知識とかをつけないといけないんですけど、やっぱり人間的に見たときに、すごく良い子でも、やっぱりそれをこう…いくら良い子ですって言っても、何とかしてあげられる道があれば、親御さんからすれば本当に勉強はできないけど、人付き合いは苦手かもしれないけど、良い子・いい学校に行かせたりとかじゃなくて、自立して自分で食べていけて・家族も愛でていけてるのが、親の気持ちだと思うんですけど、どんな仕事でも…どんな仕事でも良いんですよ。

そうなるお手伝いを、子ども食堂でやって行けたらなっとは思っています。

まあ、八木さんが週一女性スタッフとして、週一その子の面倒を見てるんですけども、今度、島さんがギターを教えてくれると…島さんの友達でギターを教える講師の方がいらっしゃいまして、その子…勉強できなくてもギターを覚えれば、たぶん自信がつくと思うんです。なんでもいいんですよ、自信がつけば。

そうすると前向きになって、こんなことができる…その子じゃなくても、どんな子でも…小学生で…小学生で楽器が弾けたらもうそれだけでも、自信をもっていけると思うんで、そういう課外授業じゃないんですけど、自信を持てる活動を、学校とは違う勉強以外にも教えることができたかなと思っています。

最後、余談が長くてすみませんが、こんな形でございますので、今日は長い時間…頂きましてありがとうございます。

《司会：島》

今のお話を聞いて、皆さん子ども食堂に対していろいろな感想をお持ちになったのではないかと思います。私も用宗の子ども食堂の立ち上げに協力をさせていただき、同級生のお母さんたちが5、6人で始めていただき、1年と7か月になります。子ども食堂ネットワークさんがずっとフォローしてくださっています。最初にやりだした頃は用宗でやりたいからやって欲しいと、半分無茶ぶりで初めてもらったのですが、最初は、なんで私たちがやんなきゃいけないのと不満も言われていましたが、今となると、あの子たちにご飯を食べさせなきゃ！という想いで、やりがいを持って運営をしてくれています。子どもたちが卒業する今の時期になると、あの子たちもう卒業ねといった話や、あの子はどここの子よといった感じで、私たちよりも子供のことを知ってくれていて、この取り組みによって地域の輪も広がってきたかなと思っています。

自分も同級生とは仲が良いのですが、親同士はそれほど付き合いがなかったため、この歳になってまた新たなネットワークができた喜んでます。ボランティアでこれだけのことをやってくださっている皆様の事を本当に神様みたいだなって感じています。

後ろにいらっしゃる八木さんは静岡の方ではなく浜松市なんです。ガソリン代も、車代も、人件費も全部自分持ちで、静岡市の子ども食堂のために通ってきてくださっています。本当に素晴らしいなと思っています。そんな姿を見ていて、じゃあ僕は何ができるのかなって

う所を考えさせられたりしています。現在、市議として自分は厚生委員会の副委員長をやっているのですが、なぜ子ども食堂に財政的な支援ができないのか？と聞かれる事があります。保育園や学校にしても、給食費を自費負担になっているのと同じ理由で、食事を食べるという行為は受益者負担というのが行政の判断です。行政としては、人的な支援や貧困対策として学習支援の施設の実施などがあります。子ども食堂に支援員を派遣して勉強を教えたらどうだというお話もさせていただいております。

子ども食堂を運営している方と一緒にあって、意見交換をする場も今年から始めていただいたので、現場をしっかりと見ながら、一緒になっていい取り組みにしていったらいいんじゃないかなと思っております。

是非、地域は地域として・企業は企業・団体は団体・行政は行政と、それぞれの強みを生かして、みんなが協力してやっていけば良い街になるんじゃないかなと思ってます。

《謝辞：増田会長》

理事長様、本日は本当にありがとうございます。

非常に貴重なお話、それから大変ご苦勞なお話まで、いろいろとお聞かせいただきまして、本当にありがとうございました。

今日お話しいただいて、子ども食堂の仕組みとか・ご苦勞のお話をしていただき、私たちも理解をさせていただきながら…また何かお手伝いのできる事があれば、やらせていただきたいと思います。

逆に何か「こうしてくれよ」っていう事があれば、またお話していただければと思います。

あのこれ…少ないですけど、会からの御礼ですので、お納めいただければと思います。

今日は本当にありがとうございました。

《飯沼理事長》

あの…これ間違いなく子どもたちのために使わせてもらいます。

ありがとうございます。